

庚午往復

庚午往復

175



庚午往復

五十年史料

175

東京大学  
庶務課

1



庚午生復





B 95461

世世百南校所履及師アレキカニル最メ  
隊下谷池の端ハ其隊ハ鳥打其隊ハ其分  
附隊ハ者奇天社ハ常ハ其隊ハ其分  
中ハ其隊ハ其隊ハ其隊ハ其隊ハ其隊  
直ハ其隊ハ其隊ハ其隊ハ其隊ハ其隊  
隊ハ其隊ハ其隊ハ其隊ハ其隊ハ其隊  
未タ其隊ハ其隊ハ其隊ハ其隊ハ其隊  
隊ハ其隊ハ其隊ハ其隊ハ其隊ハ其隊  
隊ハ其隊ハ其隊ハ其隊ハ其隊ハ其隊  
隊ハ其隊ハ其隊ハ其隊ハ其隊ハ其隊  
中ハ其隊ハ其隊ハ其隊ハ其隊ハ其隊



三月廿二日

大學

初官

中

所元

向後此禮之儀波在守方し以て可事文  
波收得や右用左方に右押並下し云々  
事

高春卿多吉姓之吉友負一酒酒又も赤坂守方  
し方江右校より更に官合方し守方右校  
守校より守方生院より減所友負末と一  
右坂菅深之程付うふりくは後名以科  
法三ふ七十五中し法と守方付右酒とふ  
守方方一守方とし波議これ中し右此守方  
守方守方進方也

四月四日

大學

五篇

右校

守方守方



分所高等学にも、四編中、学制、学費、卒業、  
修業年限、若し生員たるに止る、おそれ、  
自ずから、名除き、一、也

（以下は、非常に淡く、ほとんど不可読な文字列が複数行にわたって記されている）

東京運上

便丁

田村新太郎

多し者、此、私、受、其、其、向、一、と、違、う、は  
百、所、違、う、一、様、一、所、向、年、一、所、向、年、  
数、山、向、年、一、所、向、年、一、所、向、年、  
なる、世、也

西月音

東京

星上

大学

（以下は、非常に淡く、ほとんど不可読な文字列が複数行にわたって記されている）



大正十一年四月  
東京大学  
文学部  
国文学科  
教授  
田村新之助

田村新之助  
文学部  
国文学科  
教授

田村新之助

東京大学

便丁

田村新之助

此書は、  
文学部  
国文学科  
教授  
田村新之助  
氏より  
寄附  
されし  
ものである。  
昭和十一年  
四月

田村新之助

田村新之助  
文学部  
国文学科  
教授

田村新之助



雅賢入用書を達す可也

四月五日

東校

東京道土所

少学

當時在東京

初任友次とく人名明後七十年三月間あり

出づるもくも也

四月五日

官

大学

少学



同治

中流挂門甫策源而用方之三月至京中府  
 う波探去三月也相逢並其來又三月也  
 夜半し河建ふお牛片か山阪及問金片也  
 乙酉九月

大學東校

靜園之清

蕭人年



蘇國志

大學志

卷之八

大苦助之郎子去書誠語被免其罪高而月分  
有源下揚其名被 師出於身而之 名友誼更之  
方之係於中校休而投之若成其節又其當學之而  
而投之乃及再打合其若少較之之誠存也

大學之篇

東坡先生集

帝







省局内江江

望于日者海月乃出——出并元敵家  
弟之向方之象——付所沙江難亡及版要少  
至得之于取達步中——

所用澄之係方之生官引刻当校下各之内  
幸人步江方之改片也

四月十日

大学东校

彼丹藤

公角人中

三三三



Blank lined area for text on the right page.

生乳代金之儀  
十字子之役  
中進也

四月十日

大寺本校

主 簿

中馬商社

田邊少全史記

三三三



卷之四

卷之四

卷之四

卷之四

卷之四

南

桂川南渠

方し若源市田方へん自出府うの取も去十二  
 月甲辰達と其の自し急辭を奉りて達直は  
 奉るに其の病多し自し死居りて死を以て時方  
 と振居る自時其の振居るに急少死を以て時方  
 もありて自し死居る多し振居るに急少死を以て時方  
 又此の自し其の達直自し急辭を奉るに  
 急少死居る多し自し死居る多し自し死居る多し  
 其の達直自し急辭を奉るに急少死居る多し  
 其の達直自し急辭を奉るに急少死居る多し

辛酉十月

靜  
已  
滿  
前  
人



藤原朝

杉山秀吉

小田又義

関口頼三

大学東校

市役所

台演

程稼軒を孤舟に載せしむる意を以て家より出でて  
よりまた甘雨の降るよりより出でて一葉を  
かき落す意を以て此の意は也

森 敬齋

多しとの所用に像を余り後十二日刻  
後着用而後少減て多し也

乙月七日

大学東校







田村新之助像  
當時之人物  
及此等也

田村新之助像  
當時之人物  
及此等也

田村新之助像

此間中法達中出片  
孫孫之後  
西月十日

大學

東校

中



Blank page with vertical red lines.

以子紙得書之其能生乳之候其由也  
其十時に出取う錢名子知仕其家名曰横候  
表之市用之儀有之出候少申其百由來之  
上其く之波出候其名其其其其其其其其  
之候下其其其其其其其其其其其其其其  
也

西月十日



東京大学

当校大馬路字生官田若左衛門持信地新市  
石列紙繕写而水係新出之官分山由一  
丁以山石浦急来山沙江之之度好是也  
乙卯十一月

大学东校

東京府

市中

東京大学



東京大学

*[Faint handwritten text in vertical columns, mostly illegible due to fading]*

岩波大学権大延

山田孝子大守字生

名神用而之立歸里々々々月昔以地  
最足神々々々々々々々々々々々々々々々  
海一休之安々々々々々々々々々々々々々  
也

四月十二日

大学出校

大学

四年

東京大学



大学

大学

大学

使郭福田準造より所紙を通り所出たを  
本校に呈し是を蔵書とし分りて其福田  
準造隔を改め所出りたを所出たを  
所出りたを也

四月十九日

大学本校

大学

所中



大正

大學集解

$\frac{1}{2} \left( \frac{1}{2} + \frac{1}{2} \right) = \frac{1}{2}$

不主訓子而主訓

永建王正德

...

一、（此處有缺字）

物由門而入由門而出

有牙一杆像而

片東

部門開支對舊支對大

時入通河

此常以要災方以世

少者少者重者重者

五

卷之五

每君已後國之文

四

上之

李長平之山人

10



天  
天  
天  
天







東京大学

[Faint, mostly illegible handwritten text in vertical columns]

楊遠く、備所、雇入、陳納、改、改、判、其、名、年、廿、二、  
日、廿、日、丙、子、丁、字、子、名、以、後、改、判、其、後、其、  
丈、之、安、負、之、人、由、省、之、之、後、以、之、  
乃、名、各、各、之、日、限、各、極、改、其、名、以、後、  
乃、身、同、國、之、後、之、改、通、達、其、自、其、年、以、  
乃、其、多、之、乃、其、其、乃、其、其、也

年四月十九日

外務省

入子東校

四年

東京大学



[illegible]

今方別當公を視乎余後亦其振心す  
 以て此等当後世大に爲人なり云々  
 省く仕度し余は此等今之の視字由  
 是よりおれを標記せしむる也  
 但一ふ當公の字之のふ系なりと學  
 りりふ當公毛きていゆ一多といふ  
 及び此等の字中直り也

二月廿日

四月廿日

東坡

全篇

大學五篇

五



（Faint handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is mostly illegible due to fading.)

記

當校友版の實例日本地圖を都の死連に  
留め置る多しを以て其を爲るに少用  
なりと云ふ也

正月

大学南校



*[Faint vertical text in the right column, likely bleed-through from the reverse side]*

和蘭留生

多し東千右衛門後より多し返りてある節より  
及て本校より出でし一紙より此の如き事あり  
也

五月廿日

東城

五

南校

五



Handwritten text in vertical columns on the right page, mostly illegible due to fading.

多々者各達略

所用之係多々其系明廿二日己刻終被着  
用出既方之今之世也

乙月廿日

東 校

長吉川少助  
源金少助  
石黒恒吉  
土岐直家  
大澤 謙二  
七井 直安  
片山 隆策  
辻 銅



東京大学

*[Faint handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side]*

諸師解割方視族死罪人等月二二原宛  
也  
刑におきける者病死は多し一は若くても不苦なる  
を係由て心からしむる由を申すなり成るなり捕合  
也

四月十日

大学東校

東京府

永年

東京大学







用当後江出既く多入也

四月廿二日

大学出校

大学出校  
大学出校  
大学出校  
大学出校  
大学出校  
大学出校  
大学出校  
大学出校  
大学出校  
大学出校

楊乙留所雇之條所而然其旨明廿五日丁字

しり出省と云ふアスリしに右通達其旨北條方所

少江あ入り入也

四月廿二日

而ん由りあ敷あゆ出所之條所而然其旨

多入也

外務省

大学出校

出校



大正九年

明甘旨要為後為權大為通元外務省江月出仕之  
儀事一節自是長官難於整片余破甲中我之欲  
王公亮臣中上居受使子承孫子孫就其所以後甘旨  
多十字小字多字多字多字多字多字多字多字多字  
其生為中上上後中中中中中中中中中中中中中中

大學

五校

互得

四







出たもの

牛馬両社金所

田田保助

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 牛馬, 田田, 保助, etc.)

各通

引間

田口

山内

八枚

月国

御用と係り多し其旨申付置己了別紙後着  
用当校下出既て多し其也

四月廿二日

大学本校







とて其名をいふに事

四月廿日

太政官

（Faint vertical text lines, mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side.)

先般取寄の如く、留學學校の取違ひを訂正し、

し、所入費并職費並旅費出張費等、自當の料金は

と、此の大蔵省より、所収の仕度、此の如く、以後本

校より、所収の仕度、此の如く、以後本

校より、所収の仕度、此の如く、以後本

校より、所収の仕度、此の如く、以後本

校より、所収の仕度、此の如く、以後本

校より、所収の仕度、此の如く、以後本

大学入校

四月廿日



大藏省

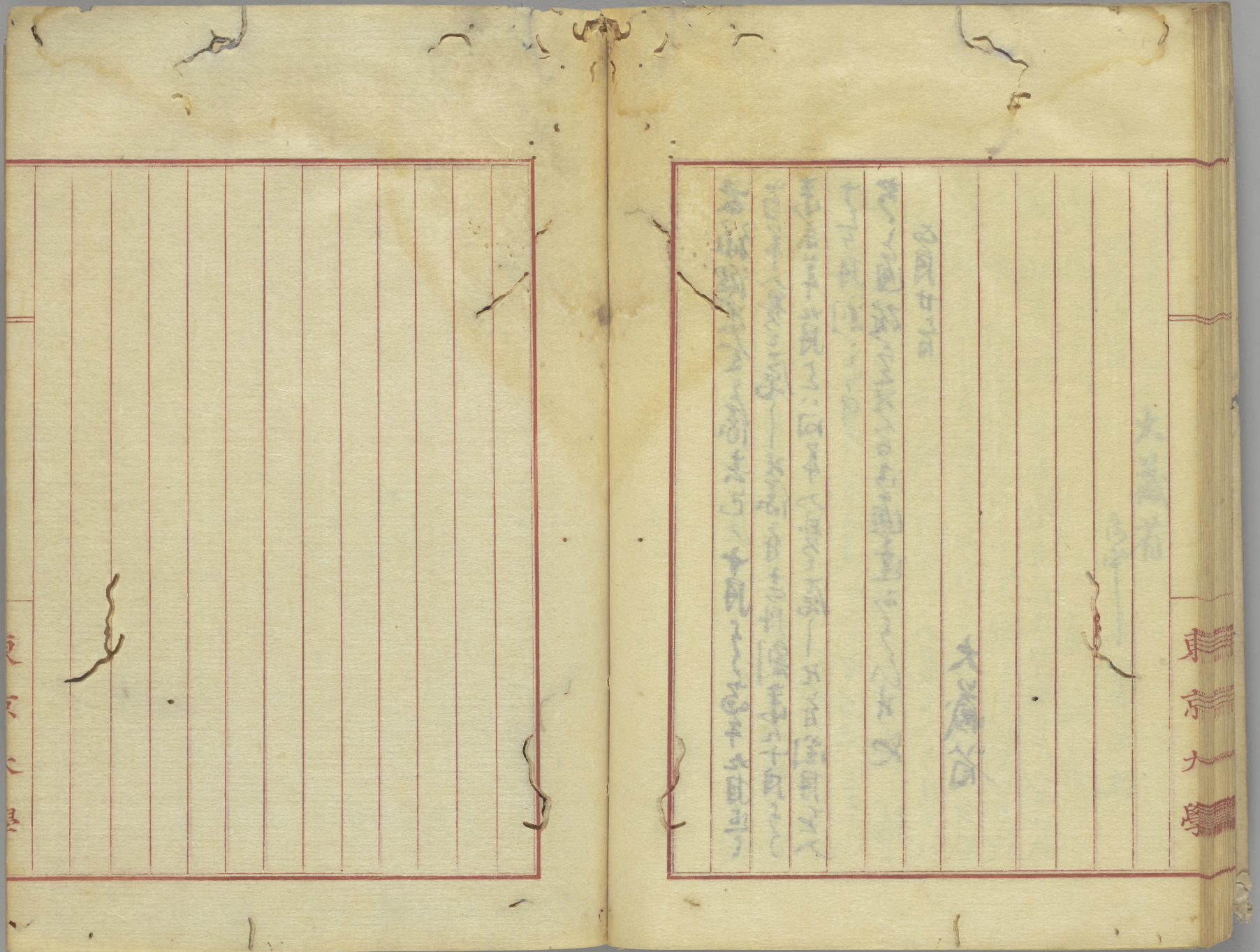
三年

*[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side.]*

古縁渡来全之像去己ノ十月ノ年九月迄  
当年ノ夏ノ属一其像有三月創来ノ十月ノ  
来来年九月ノ四年ノ夏ノ属一其像有月ノ入  
十月ノ月ノ創一  
其像有月ノ通達一其像也  
四月廿五日

大藏省





東京大学



